

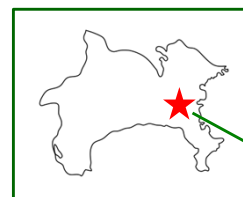
株式会社Jバイオフードリサイクル（神奈川県横浜市）

R3補正
R4当初

14

背景・課題

食品リサイクル・バイオガス発電におけるメタン発酵残渣の処理に、多くのエネルギーが必要なことから、環境負荷が大きな課題となっている。このメタン発酵残渣をバイオ液肥等に活用することにより、環境負荷低減を図るとともに、農家の化学肥料低減や栽培コストの削減につなげる。



横浜市

構 成 員

株式会社Jバイオフードリサイクル

品 目

—

成果目標と達成状況

【成果目標】

- 散布試験や肥効分析により消化液の肥料効果を確認するとともに、肥料登録を行い、地域の農家等が年間80tを利用することを目指す。

【達成状況】

- 普通肥料の汚泥肥料として、発酵液（液肥）及び発酵液の脱水固形物（固形肥料）の2種類の登録を完了。
- 目標を大幅に上回る、501tの肥料を農家等に提供。

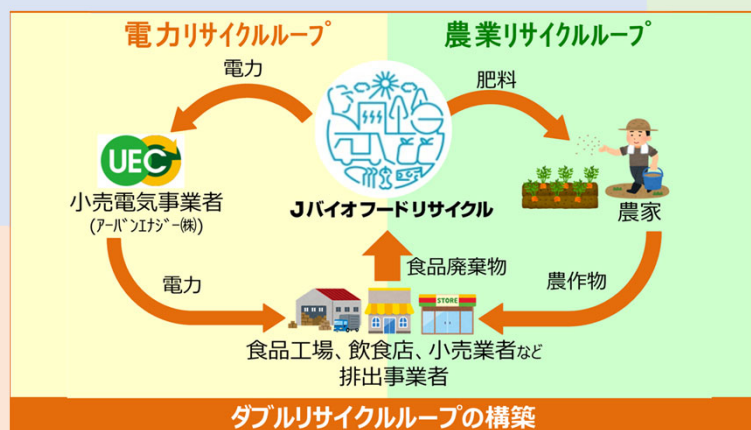
取組の成果

【普及活動】 農業関連の大学教授や国立の研究機関の専門家が参加する協議会の開催、地域の農家や機械販売業者を対象とした勉強会の実施。

また、農家だけでなく食品関連事業者を対象としたパンフレットや展示会等に向けた肥料紹介パネルを作製し、講演会や見学会等において情報発信を実施。

【散布実証】 4か所の農地で液肥の散布実証を実施。

【バイオ液肥等の配布】 バイオ液肥ステーションを4か所に設置し、近隣住民に配布したほか、工場見学の希望者にサンプルを提供。



○ダブルリサイクルループ

食品廃棄物由来の電力と肥料を、食品廃棄物を排出される事業者の方に電力及び農作物として還元し、将来的にサーキュラエコノミーの実現を目指す。

普及に向けた取組

供給システムの確立、固形肥料の効率的な散布方法、バイオ液肥等の知名度向上が課題であり、今後は肥料を利用する農業法人の増加、経済的な供給システムの構築、固形肥料散布作業の省力化を確立するとともに、大学との共同研究により学術的な観点でバイオ液肥等の肥効を確認することで、更なる肥料利用の拡大を目指す。

問い合わせ先

株式会社Jバイオフードリサイクル管理室
TEL：045-505-7845